

教科等研究会（中学校国語部会）

令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

確かな学力を育む「分かる・できる」「楽しい」国語科授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	場所	内容	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	内容
6/7	木山中	テーマ 組織	8/5	木山中	講話 ・演習	11/7	御船中	久米翔斗 教諭	1/23	木山中	実践発表 研修復講

3 研究の概要

(1) 研究の内容

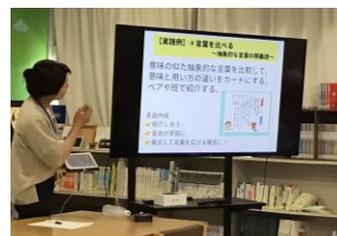
上益城郡教科等研究会全体研究テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を受け、国語部会では令和6年度の研究テーマを「確かな学力を育む『分かる・できる』『楽しい』国語科授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～」と設定した。国語はすべての教科の基礎となるものである。そこで、「分かる・できる」を実感させたり、主体的・対話的で深い学びを実現させたりするために、部会で研鑽を積み、授業改善できるようにしていきたいと考えた。

① 組織づくり

第1回目の研究会では、昨年度の実践を踏まえ、研究テーマの設定を行った。さらに、昨年度の反省を受け、研究組織を刷新し、「夏休み研修部会」、「授業研究部会」「実践研修部会」に分けた。

② 夏季研修（第2回教科等研究会）

夏の研修では、「夏休み研修部会」が立案した研修を行った。午前中は、熊本市立錦ヶ丘中学校の西村治教諭、熊本市立東町中学校の山田美輪教諭、株式会社 LoiLo の守谷真一様に「ロイロノートの効果的な使い方について」という題で講話・演習をいただいた。午後は、2つのグループに分かれ、「夏休み研修部会」「実践研修部会」の先生が、引き続きロイロノートの研修を受け、「授業研究部会」の先生は、2学期に行う授業に向けた教材研究を行った。



③ 授業研究会（第3回教科等研究会）

第2学年の「走れメロス」の授業を行った。授業研究部会で本年度のテーマに沿って事前検討を重ね、研究授業を行った。

④ 実践発表・研修復講（第4回教科等研究会）

授業研究会では、2年生の文学作品である「走れメロス」を取り扱ったこともあり、実践発表では、1年生の文学作品「少年の日の思い出」と3年生の文学作品「故郷」のグループに分かれて実践発表を行った。その後、県大会及び九州大会の復講を行った。

(2) 成果と課題

① 成果

- ・第2回教科等研究会では、ロイロノートの使い方について、さまざまな取組をされている先生から実践を伺うことができた。ご自身の資料も提供していただき、実りのある研修を行うことができた。参加した先生方からも好評であった。
- ・第2回の教科等研究会の際、午後からの研修では、「授業研究部会」と「夏休み研修部会」「実践研修部会」の2つに分かれて研修を行った。「授業研究部会」では、授業研究会に向

けて構想案の検討会を行うことができた。

- ・1回の授業研究会を行うことができた。その際に、事前授業を行ったり、事前研究会を行ったりすることで、授業者一人だけに任せることなく、部会全体で授業を作り上げることができた。

- ・今年度は、研究組織を刷新し、先生方のニーズに応えられる研修を行うことができた。また、以前からの課題であった授業者の偏りを解消することができた。

② 課題

- ・第4回教科等研究会で行った実践発表の案内は年度当初にしておくべきだった。特に3年部所属の先生には負担になってしまった。また、実践発表の教材を設定していたが、2年生担当の先生方には難しい面があるため、任意の教材でもよかったのではないかという意見が出された。

4 実践事例

(1) 授業の概要

○授業研究部会「走れメロス」（東京書籍『新しい国語2』）

① 授業者自評から

「走れメロス」を授業で取り扱ったのは、これから先も教科書に載り続けていくだろう教材であったからで、「メロスは本当の勇者だと言えるのだろうか。」という単元を通した学習課題を設定し、考えさせる授業を構想した。

本時では、班で勇者度を考えさせ、「勇者である・ない」の理由を共有させた。生徒の発言する時間が少なかったのが課題である。ほかにも発表させたい生徒がいたので、時間を確保したかった。これまでの学習の積み重ねができてきていない生徒は本時もまとめを書くことが難しかった。



② 質疑応答

- ・メロスが勇者であるか、ないかについて考えさせているが、勇者とは何かを生徒と共有しているのか。また、人物の言動の意味・表現の効果について、どのようなことに着目していればよいと想定していたか。→勇者のイメージは最初の時間に「勇気をもって困難に立ち向かっていく人」ということを共有した。表現の効果については、テーマカラーを考えたときに「赤」という表現について考えていたのでつながれるといいと思っていた。

- ・読み物教材で自分の考えを書くことが難しい生徒に机間指導でどのようにアドバイスをされたのか。→班で話し合ったことを板書しているので、それを参考にするという話をした。アドバイスに従って書き始められた生徒もいた。

- ・振り返りで日常につなげて自分の行動を考えて発表できた生徒の姿とその頑張りに感動した。→単元の前半ではあまり乗り気ではなかった。しかし、発言を挙手して発表したことを「いいね」と返したことから意欲が高まっていったようだった。授業での学びを日常につなげる振り返りを書けている生徒が何人もいた。

- ・単元の授業の流れと生徒の様子、授業者がこだわったところは。→①王様とメロスの人物像②結婚式で見せた弱さ、覚悟が決まった部分③メロスの変化④メロスのテーマカラー⑤シラーとの比較。特にクラゲチャートを使って人物像をおさえた場面とシラーとの比較については力を入れて取り組んだ。

③ 研究協議から

各グループからの報告

(Aグループ)

導入・・・班活動が有意義に進んでいた。

展開・・・教師の話が長かった。教科書本文の描写を使ってよかった。

班活動、意見が活発に出ていた。班によっては、一人の生徒に意見が偏っていた。話し合いの役割を分担してもよかったのではないか。

何を視点にして「勇者としているか」。全体共有の時に、生徒たちに聞きたい班を尋ねて

もよかった。1枚にシートをまとめていたので、それをもとに最後までまとめることができた。

(Bグループ)

導入・・・動きのある振り返りがよかった。

展開・・・円グラフの操作性がよかった。途中の解釈を考えることができた。

個人でまとめる際に、「反対意見も入れて」という例示があることでスムーズに書けたのではないか。

円グラフの左右に根拠を分けることで視覚的に分かりやすかったのではないか。

本時の目標で大事な部分は、本文に即して読みとること、という視点を先に提示することでよりスムーズに話し合いをすることができたのではないか。

終末・・・今後の読書活動につながる振り返りになっていた。振り返りの視点について、これまでの学習のシートなどを振り返るなど手だてがあるとよいのではないか。

(Cグループ)

導入・・・生徒による振り返りがスムーズだった。全体的に、生徒の学習姿勢にメリハリがあった。

話し合い活動において、教師がどの表現に着目しているか、めあてにつながっていてよかった。グループで考えることで、生徒たちは考えやすかった。勇者度の定義付けがあるとよかった。じゃんけんで決めてしまうことも…

最後、まとめと振り返りの時間も確保できてよかった。

単元のまとめとして、本時間は適当だったのかは、検討が必要である。

④ まとめ

生徒の学習意欲、教師と生徒の信頼関係があった。生徒の居場所があった。

改善点として、勇者度を考える際に、勇者の定義を示すとさらに良かった。ポートフォリオの活用。

学習のまとめとして、メロスが勇者だと判断した上で、勇者ではない部分についても考えてもよかった。

(2) 学習構想案

第2学年 国語科 学習構想案

日 時 令和6年11月7日(木) 第5校時

場 所 2年1組教室

指導者 教諭 久米 翔斗

① 研究主題との関連・指導に当たっての留意点

確かな学力を育む「分かる・できる」「楽しい」国語科授業づくり

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～

○授業の初めに前回の授業の復習の時間をとり、全員が共通の認識を持って、授業に臨めるようにする。

○小集団や全体で発表する時は、個人で思考する時間を確保し、自分なりの考えを持って話し合いや発表に参加できるようにする。

○課題解決の際は、小集団で話し合いを行い、協働的な学習を通して、読みを深める手立てとする。

○クラゲチャートなどの思考ツールを利用することで、思考が視覚的に表され、根拠となる叙述について振り返りやすくなる。(第1、2時)

○「メロスは本当に勇者であると言えるか」という問いをもとに、場面を見ていくことで、情景描写や心理描写など表現について、深く考えさせる。

○「メロスは本当に勇者であると言えるか」という問いについて、1枚ポートフォリオにまとめることで、自分の思考の道筋が明確になり、人物の言動や表現など、何に着目し文学的文章を読むのかについて整理させる。(第7時)

② 本時の学習

目標

前時までの自分の考えや他者の意見を踏まえ、人物の言動の意味や表現の効果に着目し、メロスが本当の勇者であるかについて考えることができる。

展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	7分	<p>1 これまでの学習の振り返りを行う。 ◇「走れメロス」はメロスが友人を人質に村へ帰り、3日後に王城に帰ってくるという内容だったな。</p> <p>2 めあての確認を行う。</p>	<p>○前回までのワークシートを活用し、前時までの内容を共通理解する。</p> <p>○全員立たせ、隣や班で前時までの内容について、振り返りをさせる。確認ができたら座る。その後、何人かを指名し、確認をする。</p>
		<p>【めあて】人物の言動や表現に着目して、メロスは本当に勇者であると言えるかについて考えよう。</p>	
		<p>【学習課題】 メロスは本当の勇者だと言えるのだろうか。</p>	
展開	35分	<p>3 学習課題について考える。 ①班でメロスの勇者度について考える。 ◇メロスは、勇者度70%で、勇者じゃない度が30%です。最終的に戻ってきて、王の考えを変えた部分は勇者だと思う。しかし、友達を人質にするなど勇者ではない部分も見られる。</p> <p>②全体で意見を共有する。 ◇私たちの班では、メロスは勇者度70%、勇者じゃない度30%だと思いました。理由はメロスは一度倒れるが、そこから立ち上がり、もう一度走りだしたからです。</p> <p>4 メロスが勇者であるかについて、どちらの立場か個人で考える。</p>	<p>○言動や表現など根拠を明確にするように伝える</p> <p>○円グラフを用いて、勇者度合いを示すことで、視覚的に理解しやすくする。</p> <p>○話し合いが上手くできている班のやり方を紹介することで、周りの班の話し合いも活発に進むようにする。</p>
		<p>【期待される学びの姿】 メロスが本当の勇者であるかについて、班の意見やこれまでの自分の意見を踏まえて考える姿。</p>	<p>【具体的評価規準】観点【思・判・表③】 ○人物の言動の意味や表現の効果の根拠にし、メロスは勇者であるかについて考えている。 (方法：ワークシート)</p>
		<p>【到達していない生徒への手立て】 ○班で話した意見をもとにし、そこから選ぶようにする。</p> <p>○全体で共有した意見を参考に、「人間的な部分はあるが、勇者だと考える」のような形でまとめさせる。</p>	
終末	8分	<p>5 まとめをする。</p>	<p>○4で書いた個人の意見を共有する形でまとめを行う。</p>
		<p>【まとめ】 ○途中で倒れ、くじけるという人間らしい部分はあるが、最後まで走り抜き、約束を守るという行動から、メロスは勇者だと思った。 ○最後まで走り抜き、王を変えたという部分からは勇者的な部分は見られるが、友達を人質にする行動や、途中で倒れ込み精神がやられるなどの描写から、メロスは勇者ではないと思った。</p>	
		<p>6 振り返り ◇文学的文章を読むときには、人物の言動や出来事、情景描写などの表現に着目すれば良い。</p>	<p>○振り返りについて、隣の人と学んだことについて話させ、考えをアウトプットさせる。</p>

